

日本薬局方 ブドウ糖注射液  
**大塚糖液50%**  
**大塚糖液70%**

貯法：室温保存

使用期限：容器に表示の使用期限内に使用すること。

使用時及び保管：取扱上の注意の項参照

※注) 注意－医師等の処方箋により使用すること

日本標準商品分類番号 87 3231		
大塚糖液50%	200mL 袋	500mL 袋
承認番号	20700AMZ00169	
薬価収載	1997年7月	1997年7月
販売開始	2001年4月	2001年4月
再評価結果	1977年10月	
大塚糖液70%	350mL 袋	
承認番号	20300AMZ00309	
薬価収載	1997年7月	
販売開始	1992年10月	

**OTSUKA GLUCOSE INJECTION 50%・70%**

**【禁忌（次の患者には投与しないこと）】**

低張性脱水症の患者〔本症はナトリウムの欠乏により血清の浸透圧が低張になることよって起こる。このような患者に本剤を投与すると、水分量を増加させることになり、症状が悪化するおそれがある。〕

※**【組成・性状】**

**1. 組成**

本剤は1容器中に次の成分を含有する注射液である。

品名	成分	熱量
大塚糖液50%	精製ブドウ糖 100g/200mL(50%)	400kcal/200mL
	精製ブドウ糖 250g/500mL(50%)	1000kcal/500mL
大塚糖液70%	精製ブドウ糖 245g/350mL(70%)	980kcal/350mL

**2. 製剤の性状**

品名	性状	pH <sup>注1)</sup>	比重(20℃)	浸透圧比 <sup>注2)</sup>
大塚糖液50%	無色～ 微黄色澄明	3.5～6.5 (規格値)	1.188	約12
大塚糖液70%			1.260	約15

注1) 濃度が5%を超える製剤は、5%濃度に希釈して測定。

注2) 生理食塩液に対する比

**【効能・効果】**

脱水症特に水欠乏時の水補給、薬物・毒物中毒、肝疾患、循環虚脱、低血糖時の糖質補給、高カリウム血症、心疾患（GIK療法）、その他非経口的に水・エネルギー補給を必要とする場合。

注射液の溶解希釈剤。

**【用法・用量】**

水補給、薬物・毒物中毒、肝疾患には通常成人1回5%液500～1000mLを静脈内注射する。

循環虚脱、低血糖時の糖質補給、高カリウム血症、心疾患（GIK療法）、その他非経口的に水・エネルギー補給を必要とする場合には通常成人1回10～50%液20～500mLを静脈内注射する。点滴静注する場合の速度は、ブドウ糖として0.5g/kg/hr以下とする。

注射液の溶解希釈には適量を用いる。

なお、年齢・症状により適宜増減する。

特に50%ブドウ糖注射液（200mL・500mL製品）及び70%ブドウ糖注射液（350mL製品）は、経中心静脈栄養などの高カロリー輸液として中心静脈内に持続点滴注入する。

**【使用上の注意】**

**1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）**

- カリウム欠乏傾向のある患者〔ブドウ糖の投与によりカリウムが細胞内に移行し、一時的に血清カリウム値が低下し、症状が悪化するおそれがある。〕
- 糖尿病の患者〔高血糖を生じ症状が悪化するおそれがある。〕
- 尿崩症の患者〔本症には適切な水分、電解質管理が必要であり、本剤の投与により電解質等に影響を与え、症状が悪化するおそれがある。〕
- 腎不全のある患者〔水分の過剰投与に陥りやすく、症状が悪化するおそれがある。〕

**2. 重要な基本的注意**

- 投与は低濃度の液より開始し、徐々に濃度を上げて投与することが望ましい。
- ブドウ糖の投与速度が速い場合に急激に中止することにより、低血糖を起こすおそれがある。

**3. 副作用**

大塚糖液50%：使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

大塚糖液70%：総症例71例中、副作用が報告されたのは2例(3%)で、いずれも投与開始後早期の一過性高血糖であった（承認時、1991年）。

副作用が認められた場合には、投与を中止するなど、適切な処置を行うこと。

**大量・急速投与**：大量を急速投与すると、電解質喪失を起こすことがあるので、慎重に投与すること（第一次再評価結果その13、1977年）。

**4. 高齢者への投与**

一般に高齢者では生理機能が低下しているため、投与速度を緩徐にし、減量するなど注意すること。

**5. 適用上の注意**

- 投与経路：①皮下大量投与により、血漿中から電解質が移動して循環不全を招くおそれがあるため、皮下投与しないこと。  
②中心静脈内に投与し、末梢静脈内には投与しないこと。
- 調製時：他の医薬品を混注して使用する場合には、医薬品相互の物理的・化学的変化に十分注意して行うこと。
- 投与前：①投与に際しては、感染に対する配慮をすること（患者の皮膚や器具消毒）。  
②寒冷期には体温程度に温めて使用すること。  
③開封後直ちに使用し、残液は決して使用しないこと。
- 投与时：ゆっくり投与すること。

※**【有効成分に関する理化学的知見】**

一般名：精製ブドウ糖

(Purified Glucose)

化学名：D-Glucopyranose

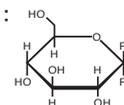
分子式：C<sub>6</sub>H<sub>12</sub>O<sub>6</sub>

分子量：180.16

性状：白色の結晶又は結晶性の粉末で、味は甘い。

水に溶けやすく、メタノール又はエタノール(95)に溶けにくい。

構造式：



α-D-グルコピラノース：R<sup>1</sup> = H, R<sup>2</sup> = OH  
β-D-グルコピラノース：R<sup>1</sup> = OH, R<sup>2</sup> = H

**【取扱い上の注意】**

- 注射液はゴム栓の○印にまっすぐ刺すこと。斜めに刺すと注射液が容器頸部を貫通し、液漏れの原因となることがある。
- ソフトバッグ製品は、原則として連結管を用いたタンデム方式による投与はできない。
- 包装内に水滴が認められるものや内容液が白濁（70%液のブドウ糖の結晶析出）、混濁又は着色しているものは使用しないこと。
- 容器の液目盛りはおよその目安として使用すること。

**【包装】**

大塚糖液50%	200mL	20袋	ソフトバッグ入り
	500mL	20袋	ソフトバッグ入り
大塚糖液70%	350mL	10袋	ソフトバッグ入り



販売提携 **大塚製薬株式会社** 東京都千代田区神田司町2-9

製造販売元 **株式会社大塚製薬工場** 徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115